

令和3年度第2回庄原市学校・警察連絡協議会

開催日：令和3年12月8日（水） 開催場所：庄原市ふれあいセンター 集会室

参加者：庄原警察署、北部こども家庭センター、庄原警察署管内少年補導協助員連絡協議会、庄原市主任児童委員、庄原市内県立高等学校、庄原特別支援学校、庄原市内小・中学校、庄原市教育委員会

【目的】 広域化、低年齢化する児童生徒の問題行動及び不登校等について、学校と警察、関係機関等が情報交換を行い、組織的な連携を深めることを通して、児童生徒の問題行動及び不登校等の未然防止や早期対応を図る。

【講話】 「少年非行の現状と課題について」

庄原警察署 生活安全刑事課 生活安全係長 中尾 徹

- 広島県内の非行少年の検挙数は、昨年度と比較して約17%減少している。刑法犯においては窃盗（万引き、乗り物盗）が約半数を占めている。
- 広島県内の不良行為少年の補導数は、昨年度と比較して約16%減少している（小学生以下は増加しているが、中高生は減少している）。補導した理由は、小学生以下では家出、中高生では深夜徘徊が最も多くなっている。
- 検挙の裏には被害者がいることを忘れてはならない。
- SNSに関連する捜査では、客観的証拠が特に重要になる。早い段階から相談して欲しい。
- 警察との連携がさらに深まれば、より良い庄原市になる。



【講話・演習】 「生徒指導上の諸課題の現状と課題について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 福田 和宏

- 良かれと思った言動であっても、言われた児童生徒が心身の苦痛を感じた場合、いじめに該当することがあるといじめ防止対策推進法に明記されていることを確認した。
- いじめを積極的に認知し、早期に対応することが重要である。
- 各校での不登校対応への参考として、小澤美代子氏の研究・実践について紹介した。不登校の要因がどこにあり、どのタイプの不登校にあてはまるのかを見立てることができれば、個に応じた効果的な支援につながる。
- 不登校児童生徒の支援の在り方について、直ちに学校復帰のみを目標にするのではなく、社会的な自立（精神的な自立及び経済的な自立）を目指すという視点も踏まえて支援をしていく必要がある。
- 不登校児童生徒が生じないような、「魅力あるよりよい学校づくり」が求められている。このことについて、市内の小中学校で実践されている取組を紹介した。特別活動、児童会や生徒会活動の充実を図るなど、各校の創意工夫を凝らした取組が大切である。

【協議・交流】 （1）いじめの問題に係る取組について

（2）不登校への対応及び不登校の未然防止に係る取組について



（事後アンケートより）

- ・福祉の立場ですが、学校の状況などを知ることができ、有意義でした。学校と共通している考え方も多くあるように思いました。連携を密にして、児童生徒の支援を行いたいと思います。
- ・他校種の先生との協議は、学びが多かったです。児童生徒が小中高と成長する中で、人とつながっていく力やコミュニケーション能力を高める指導が必要だと思います。
- ・学校として、「どう対応していくか」という研修はありますが、保護者の思いや声を教材（資料）とした研修は少ないので、生の声を参考に寄り添える指導について考えていけたらいいと感じます。